

■源範頼 武将。源頼朝の異母弟で、平氏追討に東奔西走したが、突如伊豆へ配流に処せられ、謀殺された。

みなもとののりより

・・・・・・1152 = この頃、遠江国池田宿の遊女を母に、源義朝の子に生まれる。源頼朝の異母弟にあたる。

保元の乱・・・・1156 = 4歳：

平治の乱・・・・1159 = 7歳：平治の乱後，

・・・・・・1161 = 9歳：

・・・・・・1170 = 18歳：

これ以前の経歴についてはまったく不詳であるが、蒲冠者と通称されているところから、遠江国蒲御厨で成長したと推測されている。

治承のクーデタ 1179 = 27歳：

源氏一斉蜂起 1180 = 28歳：*伊豆で流人生活を送っていた兄頼朝が源家再興のため挙兵すると、早速そのもとに参じてきたと思われ、

平清盛没・・・・1181 = 29歳：一族の志田義広追討のため下野国に出陣している。

後鳥羽天皇・1183 = 31歳：弟義経とともに頼朝の代官として、当時京都にあった従兄木曾義仲追討に数万騎の軍勢を率いて出陣。

・・・・・・1184 = 32歳：近江国勢多で義仲を討つことに成功、そのまま義仲敗死後の京中の治安確保のため上洛した。当時播磨・摂津両国の境一ノ谷にあって、京都の形勢をうかがう平氏を追討するため、大手の大將軍として5万6千余騎の軍勢を率いてただちに出京。摂津国生田森に進軍して、搦手の義経軍とともにこれを敗走させるが、頼朝の命によってこれを追撃することなく帰洛。間もなく治安維持のため義経を京都に残して、自身はそのまま鎌倉に帰還した。同年、頼朝の推挙により、一ノ谷合戦の勲功賞として三河守に任官。再度、平氏追討の任を帯びて鎌倉を出陣。朝廷から追討使の官符を賜り、西海に赴いた。このころ平家の本隊は讃岐国屋島に陣を設け、平知盛を将とする別隊は門司関にあって九州武士団の結集にあたり、瀬戸内海の制海権を掌握していた。このため範頼はまず山陽道を経由して九州に渡り、平家軍を背後から攻撃することを目差したが、遠路の出陣であり、また本来平氏の基盤であったことから、年末には赤間関(現、下関の地)に到着はしたものの、兵糧米は欠如、また渡海のための兵船も整わず、兵士の戦意は衰え苦戦を強いられることとなった。この膠着状態に業を煮やした頼朝は義経に出陣を命令。

平氏滅亡・・・・1185 = 33歳：*義経は屋島の平家軍を奇襲、さらにこれを追走して長門国壇ノ浦で壊滅させることに成功した。このあと範頼は九州に渡海。ここに残留して戦後処理と九州における鎌倉幕府支配の確立に努めた後、三河守辞任し、京都を経由して鎌倉に帰還した。

・・・・・・1188 = 36歳：

・・・・・・1193 = 41歳：その後、幕府内では主だった活動をしていないが、

*曾我兄弟の仇討事件の際、頼朝暗殺の浮説が流れ、このとき鎌倉留守居役であった範頼が、悲嘆している北条政子に'自分が健在であり、源氏の代は無事である'と進言。頼朝が無事帰還後、これが謀反として問題となり、忠誠を誓う起請文を頼朝に提出するが認められず、突如伊豆へ配流に処せられた。その後、範頼に関する記録はいっさい存在しないが、配流の直後に謀殺されたのではないかと推測されている。